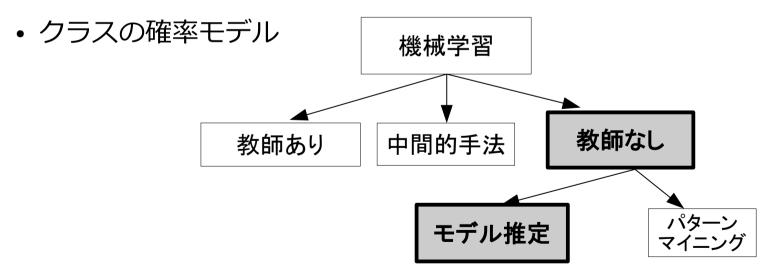
## 機械学習の発展的な話題

- 教師なし学習
- 半教師あり学習
- 深層学習

## 10. モデル推定

- 問題設定
  - 教師なし学習
  - 数値入力 → クラスモデル
    - クラスモデルの例
      - クラスの分割結果



## 10.1 問題の定義

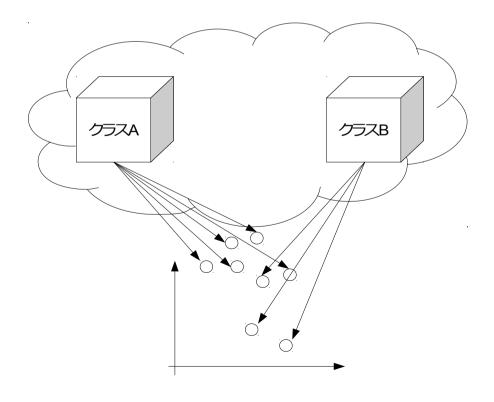
学習データ

$$\{x^{(i)}\}$$
  $i = 1, .., N$ 

• 問題設定

• 特徴ベクトル *x* が生成された元のクラスの性質を

推定する



## 10.2 クラスタリング

- クラスタリングとは
  - 対象のデータを、

内的結合(同じ集合内のデータ間の距離は小さく)と

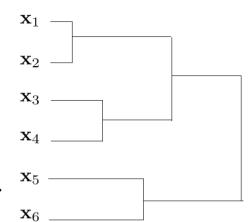
外的分離(異なる集合間の距離は大きく) が達成されるような部分集合に分割すること

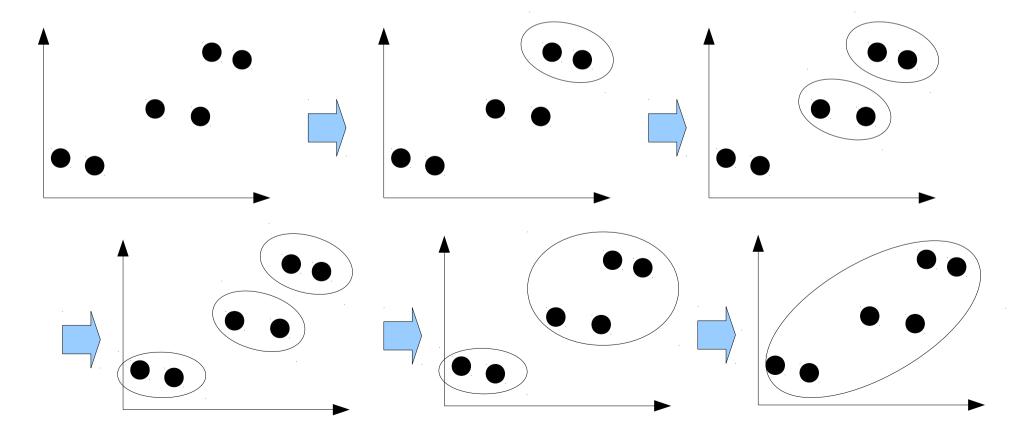
要するに 塊を見つ けること

- クラスタリング手法の分類
  - 階層的手法
    - ボトムアップ的にデータをまとめてゆく
  - 分割最適化手法
    - トップダウン的にデータ集合を分割してゆく

## 10.2.1 階層的クラスタリング

- 階層的クラスタリングとは
  - 1.1 データ 1 クラスタからスタート
  - 2.最も近接するクラスタをまとめる
  - 3.全データが 1 クラスタになれば終了





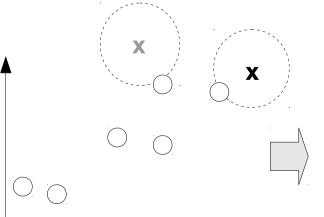
## 10.2.2 分割最適化クラスタリング — k-means アルゴリズム—

- 分割最適化クラスタリングとは
  - データ分割の良さを評価する関数を定め、その評価関数の値を最適化することを目的とする
  - ただし、全ての可能な分割に対して評価値を求めることは、データ数 N が大きくなると、不可能
    - 2 分割で 2™通り
  - 探索によって、準最適解を求める

## 10.2.2 分割最適化クラスタリング — k-means アルゴリズム—

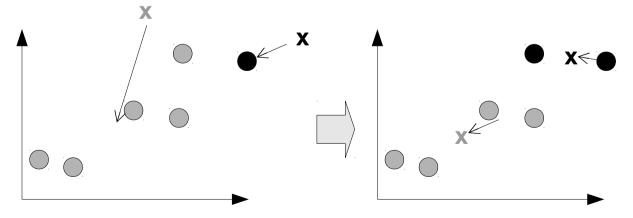
- k-Means アルゴリズム
  - 1.分割数 k を予め与える
  - 2.乱数で k 個のクラスタ中心を設定し、逐次更新

k=2 とし、初期値として 乱数でクラスタ中心を配置 x



全データを近い方のクラスタ 中心に所属させる。そして、 クラスタ中心を所属している データの平均へ移動。

左の処理を繰り返す。



## 10.2.3 自動分割最適化クラスタリング — X-means アルゴリズム—

- k-means 法の問題点
  - 分割数 k を予め決めなければならない
- 解決法 ⇒ X-means アルゴリズム
  - 2 分割から始めて、分割数を適応的に決定する
  - 分割の妥当性の判断: BIC(Bayesian information criterion) が小さくなれば、分割を継続

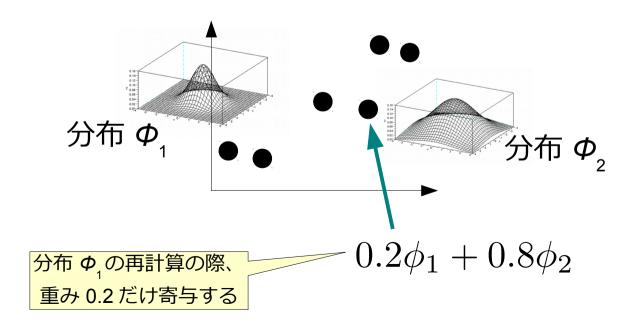
$$BIC = -2\log L + q\log N$$

- L: モデルの尤度
- q: モデルのパラメータ数
- N: データ数

パラメータで表される 統計モデルの選択基準 (小さいほどよいモデル)

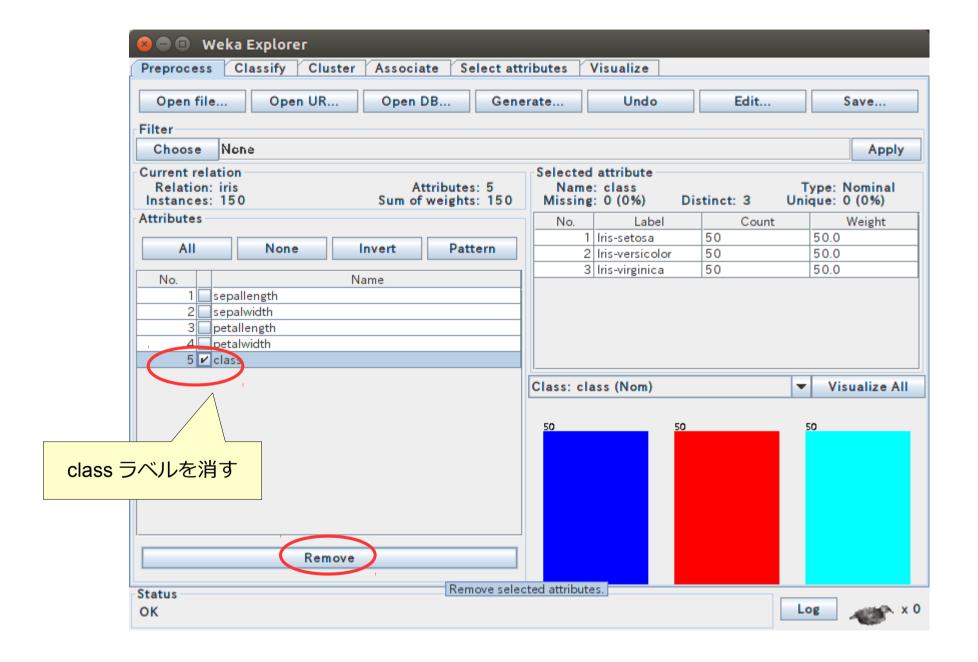
## 10.4 確率密度推定

- 教師なし学習で識別器を作る問題
  - クラスタリング結果からは、1クラス1プロトタイプの単純な識別器しかできない
  - 各クラスの事前確率や確率密度関数も推定したい
    - EM アルゴリズム

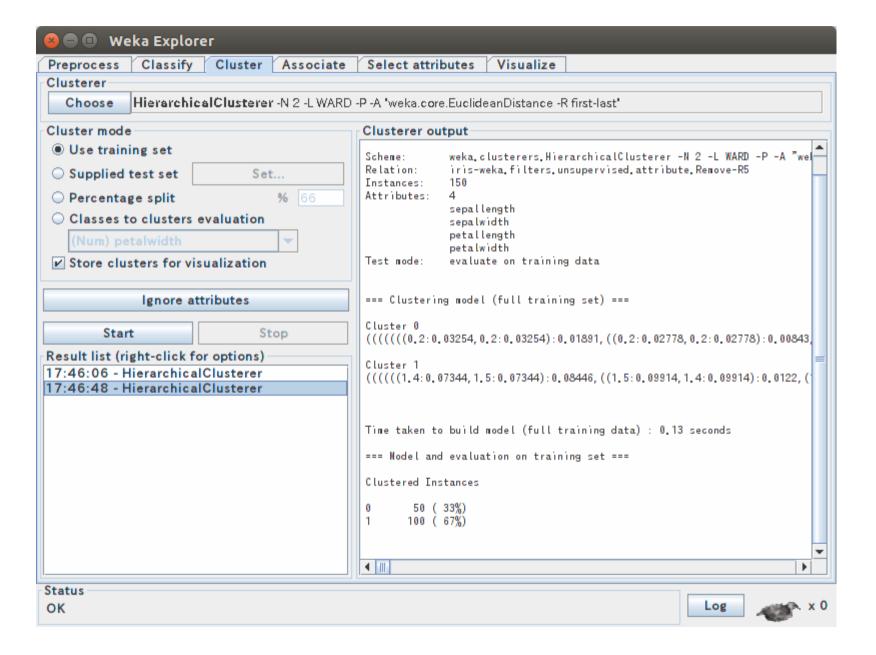


## 10.4 確率密度推定

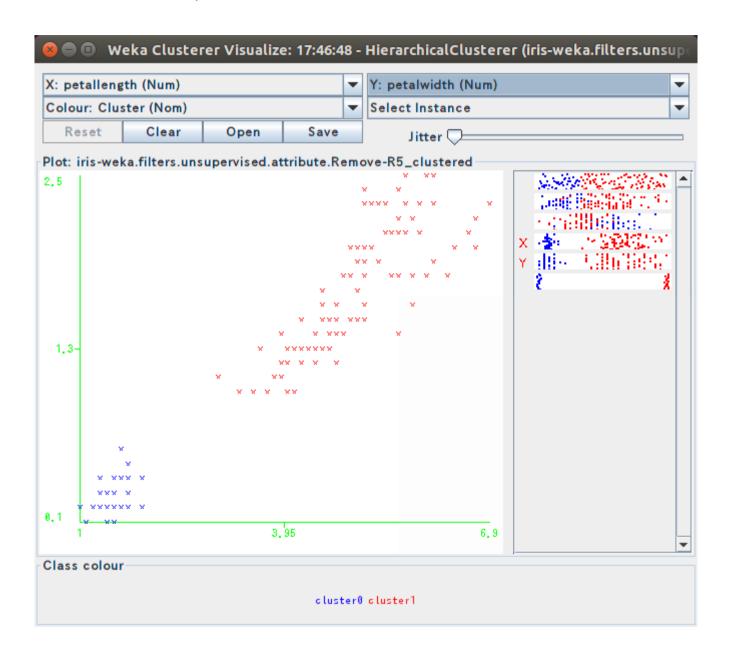
- k-means 法の一般化
  - k 個の平均ベクトルを乱数で決める
    - ⇒ k 個の正規分布を乱数で決める
  - ・ 平均ベクトルとの距離を基準に、各データをいずれ かのクラスタに所属させる
    - ⇒各分布が各データを生成する確率を計算し、 各クラスタにゆるやかに帰属させる
  - ・所属させたデータをもとに平均ベクトルを再計算 ⇒各データのクラスタへの帰属度に基づき各分布
    - のパラメータ(平均値、共分散行列)を再計算



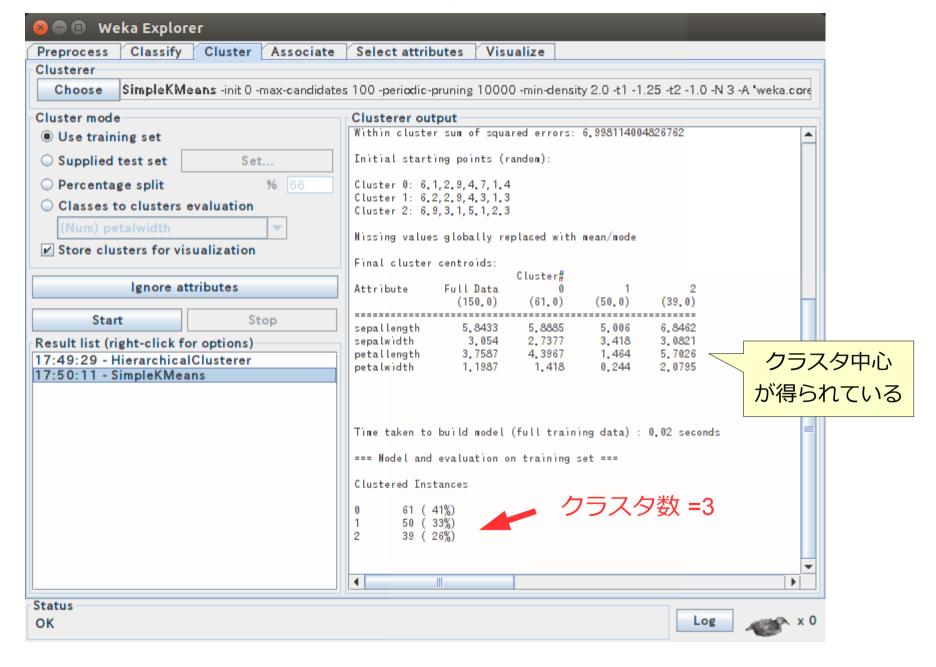
## Weka の HierarchicalCluster



## Weka の HierarchicalCluster



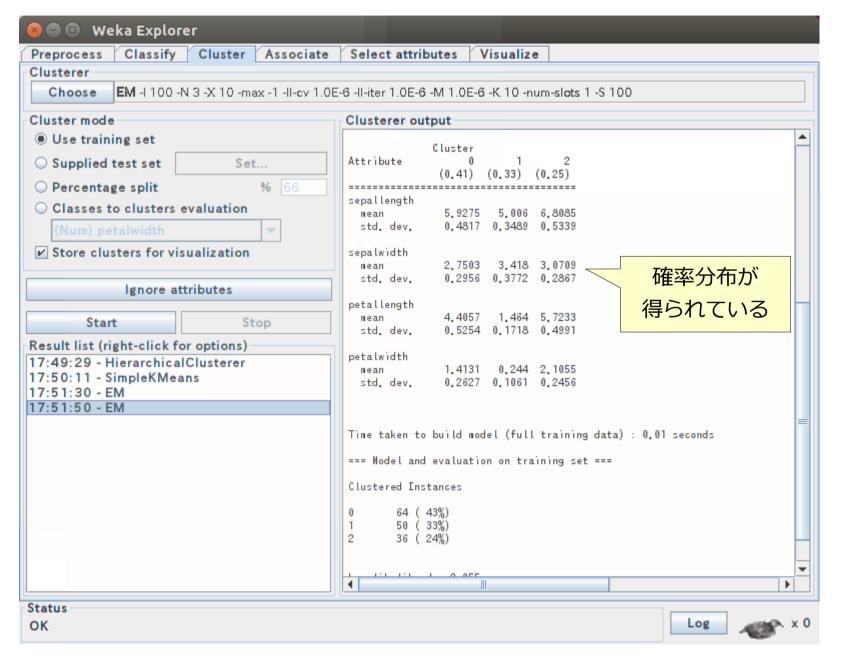
# Weka の SimpleKMeans



# Weka の SimpleKMeans

| 800                   | We   | ka Cluster | er Visualize | : 17:50:11                                     | - S            | impleKMeans (iris-we | ka.filters.unsupervised.at   |  |  |
|-----------------------|--|------------|--------------|--|----------------|----------------------|--|--|--|
|                       | X: petallength (Num)   |            |              |  | <b>~</b>       | Y: petalwidth (Num)  |  |  |  |
| Colour                | Colour: Cluster (Nom)  |            |              |  | ~              | Select Instance      | _  |  |  |
| Reset Clear Open Save |  |            |              | Jitter 🖵                                       |                |                      |  |  |  |
| Plot: iri             | Plot: iris-weka.filters.unsupervised.attribute.Remove-R5_clustered |            |              |  |                |                      |  |  |  |
| 1.3-                  |  |            | X X X        | XX<br>(X X X X<br>(X X X X X X X X X X X X X X | ××<br>××<br>×× | x x x x x x          | Series de Bergeron de La companya de |  |  |
| 0.1 L<br>1<br>Class c |  | , x        | 3,<br>clus   | 95<br>ter1                                     |                | 6.9<br>cluste        | r2   |  |  |

## Weka の EM

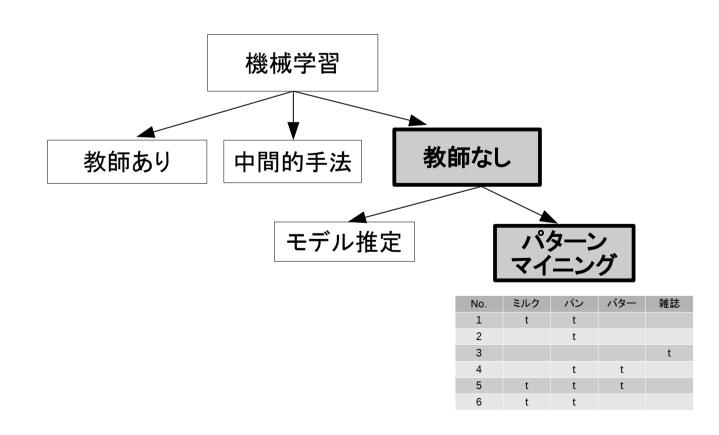


## WekaのEM

| <b>8 0</b>   | Weka Clu  | isterer Vi                            | sualize: 1                             | 17:51:50 - EI                         | M (iris-weka.filter                                  | s.un |  |  |  |
|--------------|---|---------------------------------------|--|---------------------------------------|--|------|--|--|--|
| X: peta      | allength (Num   | )                                     |  | ▼ Y: petalwidth (Num)                 |  |      |  |  |  |
| Colour       | : Cluster (No   | m)                                    |  | ▼ Select Instance ▼                   |  |      |  |  |  |
| Re           | Re Cl Op Save   |                                       |  | Jitter 🖵                              |  |      |  |  |  |
| Plot: iri    | Plot: iris-weka.filters.unsupervised.attribute.Remove-R5_clustered  |                                       |  |                                       |  |      |  |  |  |
| 1.3-         |   | × × × × × × × × × × × × × × × × × × × | XX X X X XXX XXX XX XX X X X X X X X X | × × × × × × × × × × × × × × × × × × × | 海行政的公司<br>自該重要的公司<br>可能制的的公<br>× 養 一份額公司<br>× 抽,可能制的 |      |  |  |  |
| 0.1 <u>t</u> | X 2000 X | 3.95                                  |  | 6, 9                                  |  | •    |  |  |  |
| Class o      | colour  | cluste                                | er0 cluster                            | r1 cluster2                           |  |      |  |  |  |

## 11章 パターンマイニング

- パターンマイニングの問題設定
  - 入力:ラベル特徴の教師なしデータ
  - 出力:頻出項目、連想規則

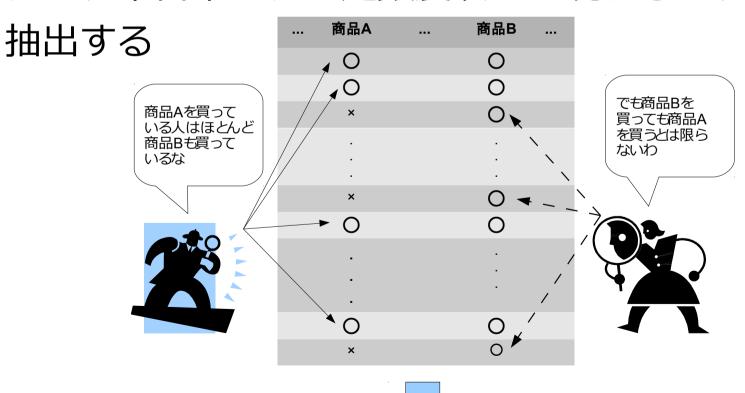


## 問題の定義

• 学習データ

$$\{\mathbf{x}^{(i)}\}$$
  $i = 1, ..., N$ 

- 問題設定
  - データ集合中で、一定頻度以上で現れるパターンを



#### 11.2 Apriori アルゴリズムによる頻出項目抽出

例題:バスケット分析

| No. | ミルク | パン | バター | 雑誌 |
|-----|-----|----|-----|----|
| 1   | t   | t  |     |    |
| 2   |     | t  |     |    |
| 3   |     |    |     | t  |
| 4   |     | t  | t   |    |
| 5   | t   | t  | t   |    |
| 6   | t   | t  |     |    |

#### 支持度

- 全データ T に対して、ある項目集合が出現する割合
- 支持度が閾値以上の項目集合を抽出したい

$$support(items) = \frac{T_{items}}{T}$$

項目集合の種類数は、 2 の商品数乗

#### 11.2 Apriori アルゴリズムによる頻出項目抽出

• a priori な原理

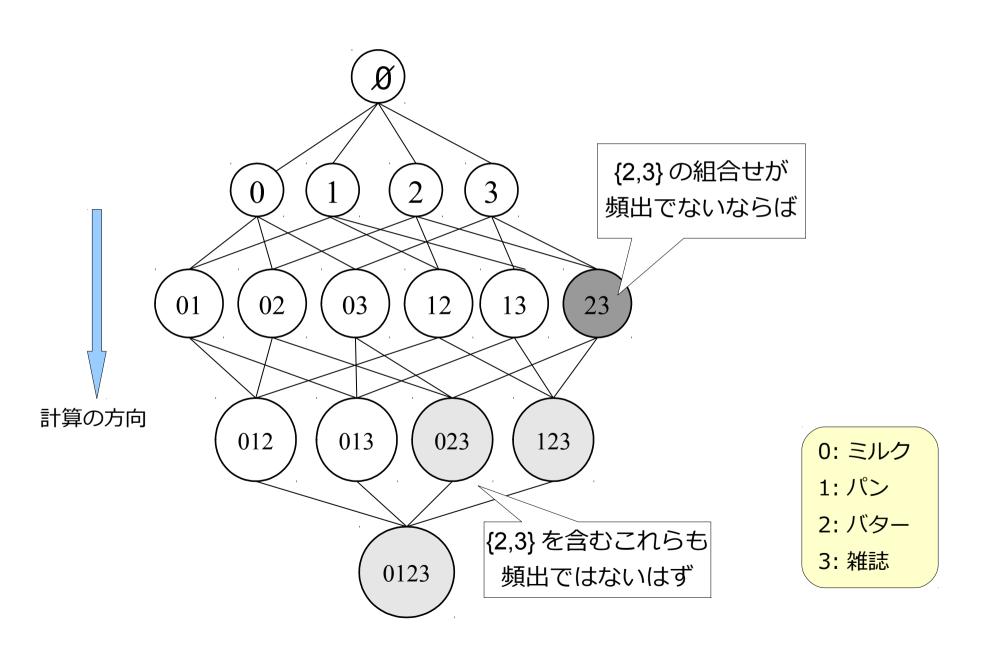
ある項目集合が頻出ならば、その部分集合も頻出である



対偶

ある項目集合が頻出でないならば、 その項目集合を含む集合も頻出でない

## 11.2 Apriori アルゴリズムによる頻出項目抽出



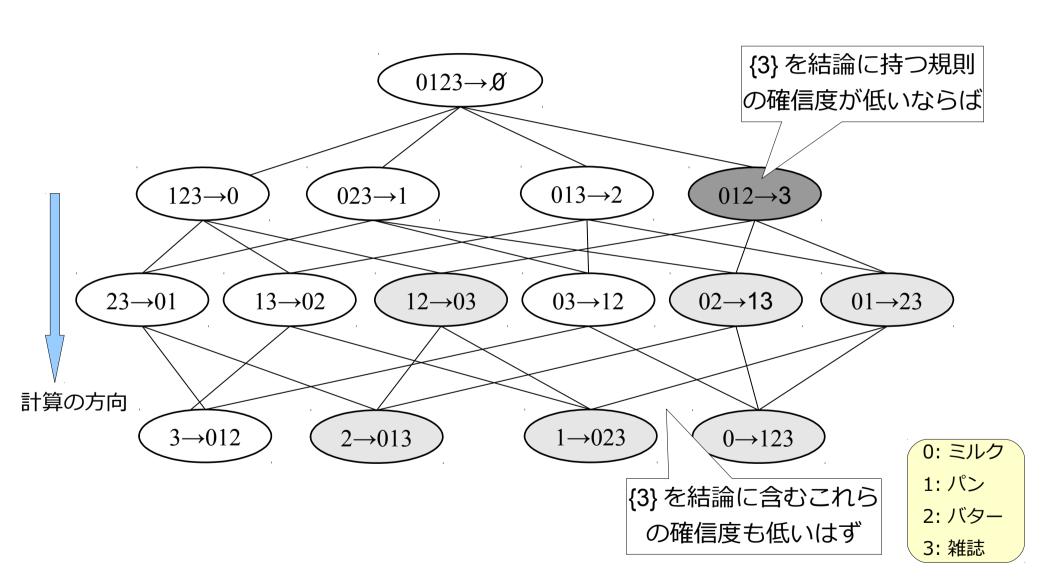
## 11.3 連想規則抽出

- 連想規則
  - 頻出項目集合を、条件部と結論部に分ける
  - 確信度の高い規則を抽出

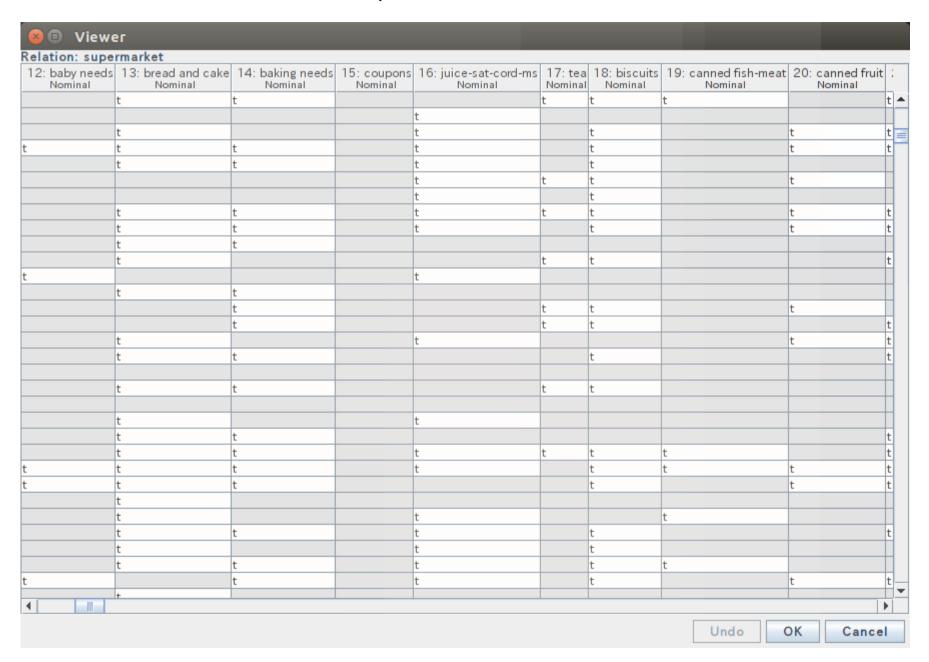
confidence(A 
$$\rightarrow$$
 B) =  $\frac{support(A \cup B)}{support(A)}$ 

a priori 原理による探索

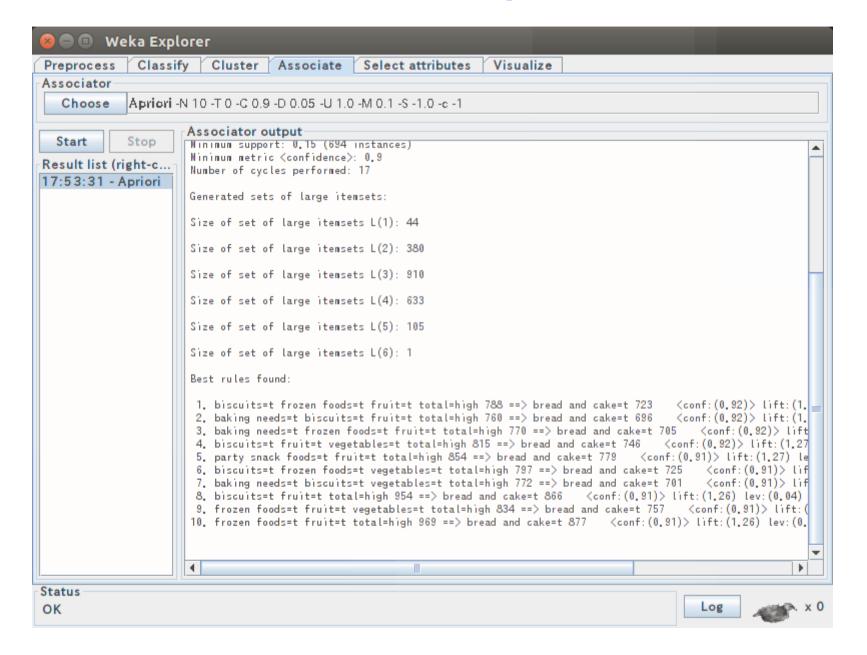
## 11.3 連想規則抽出



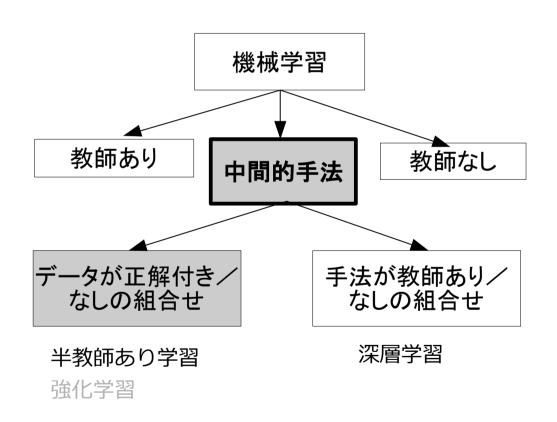
#### supermarket データ



# Weka の Apriori

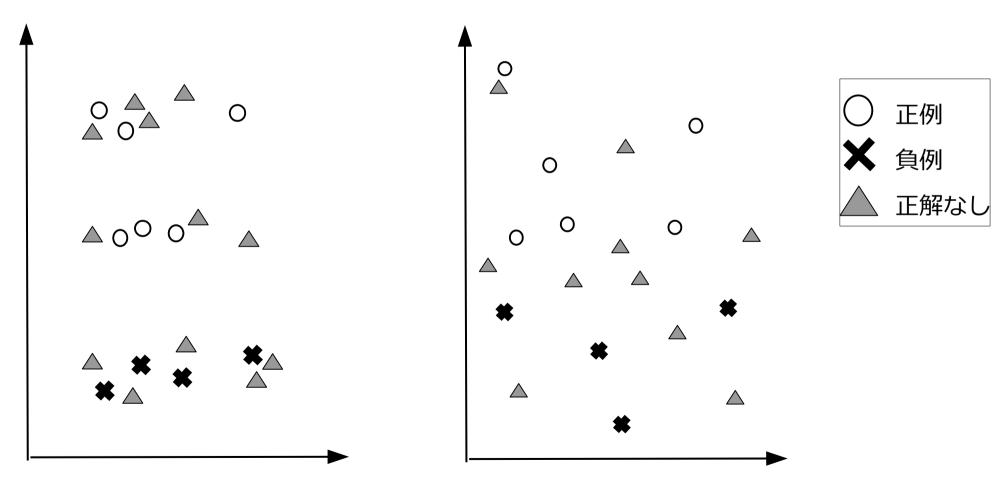


# 13 章 半教師あり学習



# 13.1 半教師あり学習とは 13.1.1 数値特徴の場合

• 半教師あり学習に適した数値特徴データの性質



半教師あり学習に適するデータ

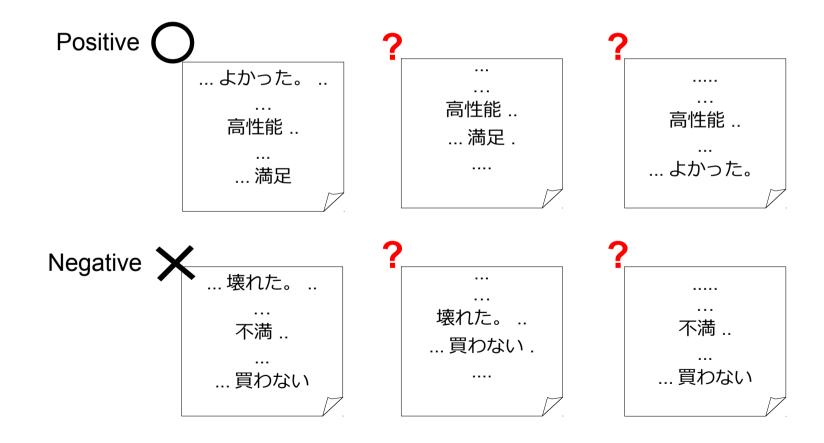
半教師あり学習に適さないデータ

## 13.1.1 数値特徴の場合

- 半教師あり学習が可能なデータ
  - 半教師あり平滑性仮定
    - 二つの入力が高密度領域で近ければ、出力も関連している
  - クラスタ仮定
    - もし入力が同じクラスタに属するなら、それらは同じクラスになりやすい
  - 低密度分離
    - 識別境界は低密度領域にある
  - 多様体仮定
    - 高次元のデータは、低次元の多様体上に写像できる

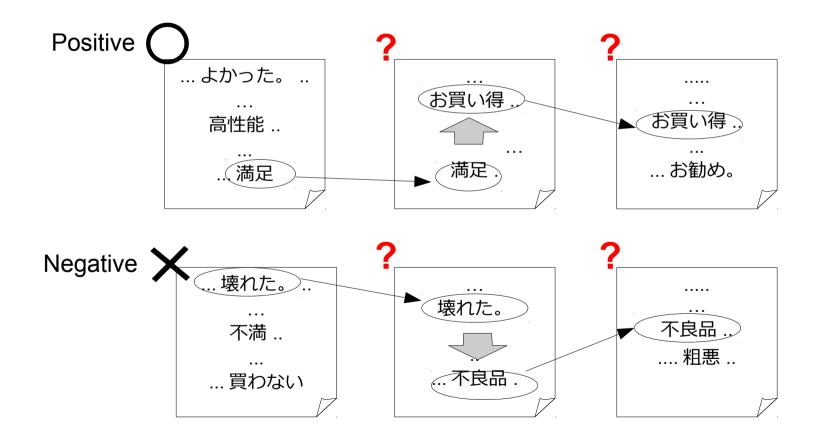
### 13.1.2 ラベル特徴の場合

#### • オーバーラップ



## 13.1.2 ラベル特徴の場合

#### 伝播

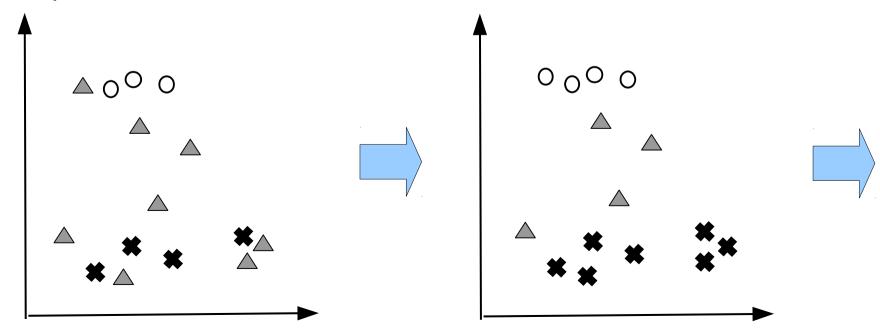


#### 13.1.3 半教師あり学習のアルゴリズム

- 半教師あり学習の基本的な考え方
  - 正解付きデータで識別器を作成
  - 正解なしデータで識別器のパラメータを調整
- 識別器に対する要求
  - 確信度の出力:正解なしデータに対する出力を信用 するかどうかの判定に必要

#### 13.2 自己学習

- 自己学習のアルゴリズム
  - 1.正解付きデータで初期識別器を作成
  - 2.正解なしデータの識別結果のうち、確信度の高いものを、正解付きデータとみなす
  - 3.新しい正解付きデータで、識別器を学習
  - 4.2,3を繰り返す

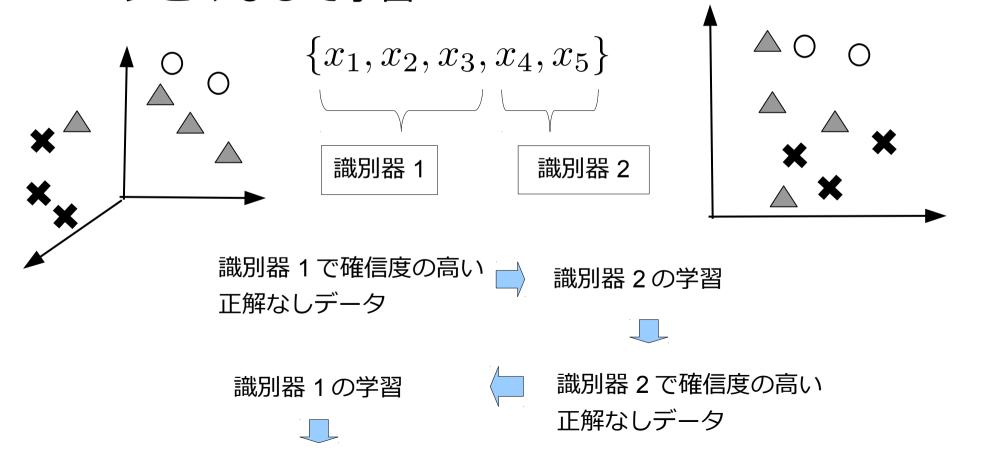


#### 13.2 自己学習

- 自己学習の性質
  - クラスタ仮定や低密度分離が満たされるデータに対しては、高い性能が期待できる
  - 低密度分離が満たされていない場合、初期識別器の 誤りが拡大してゆく可能性がある

#### 13.3 共訓練

- 共訓練とは
  - 判断基準が異なる識別器を交互に用いる
  - ・ 片方の確信度が高いデータを、相手が正解付きデータとみなして学習



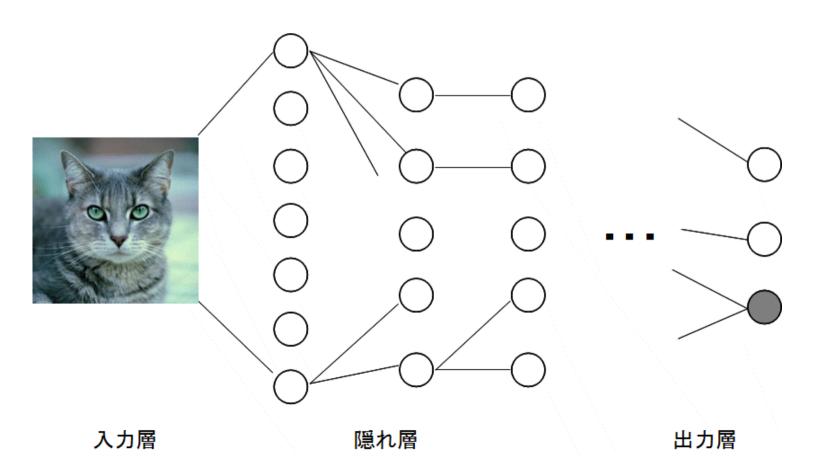
#### 13.3 共訓練

- 共訓練の特徴
  - 学習初期の誤りに対して頑健
- 共訓練の問題点
  - それぞれが識別空間として機能する特徴集合を、 どのようにして作成するか
  - ・全ての特徴を用いる識別器よりも高性能な識別器が 作成できるか

## 15章 深層学習

#### 15.1 深層学習とは

- 深層学習の定義のひとつ
  - 表現学習:抽出する特徴も学習する



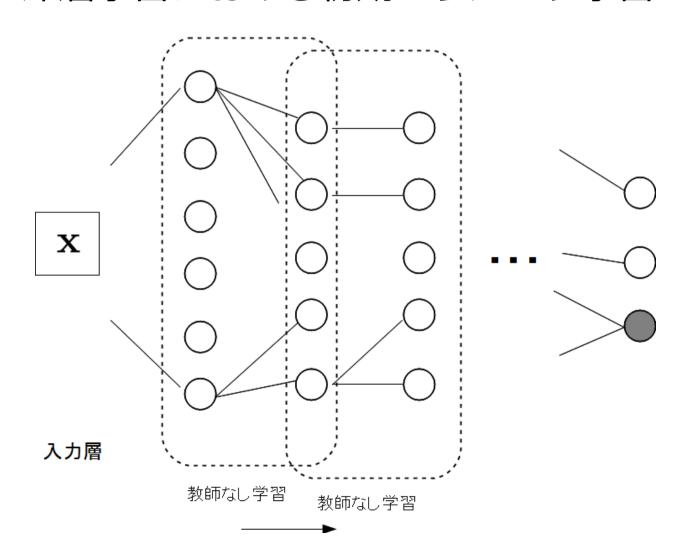
#### 15.2 多階層ニューラルネットワークの学習

- 問題点
  - 修正量が消失/発散する

順方向:非線形 逆方向:線形 入力層 隠れ層 出力層 修正量

#### 15.2 多階層ニューラルネットワークの学習

- 事前学習法のアイディア
  - 深層学習における初期パラメータ学習



#### 15.2 多階層ニューラルネットワークの学習

#### **Algorithm 15.1** 深層学習のアルゴリズム

入力: 正解付学習データ X

出力: *L*層 DNN

 $F \leftarrow X$ 

for l = 1 to L - 1 do

単層特徴抽出器の学習  $\hat{\Lambda} = \arg\min_{\Lambda} h(\Lambda; F)$ 

単層特徴抽出器から DNN のパラメータ抽出:  $\mathbf{W}_l \leftarrow \hat{\mathbf{W}}(\hat{\Lambda}), \mathbf{b}_l \leftarrow \hat{\mathbf{b}}(\hat{\Lambda})$ 

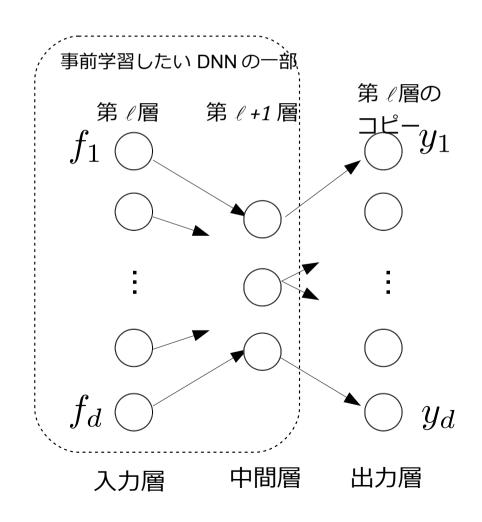
単層特徴抽出器の適用:  $F \leftarrow \Phi(F)$ 

#### end for

softmax 法などで最上位層を含めた誤差逆伝播法による学習

#### 15.3 Autoencoder

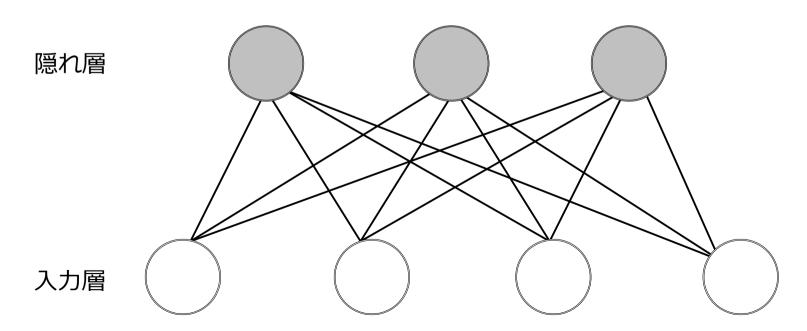
- 事前学習に用いるネットワーク
  - Autoencoder: 自己写像を行う



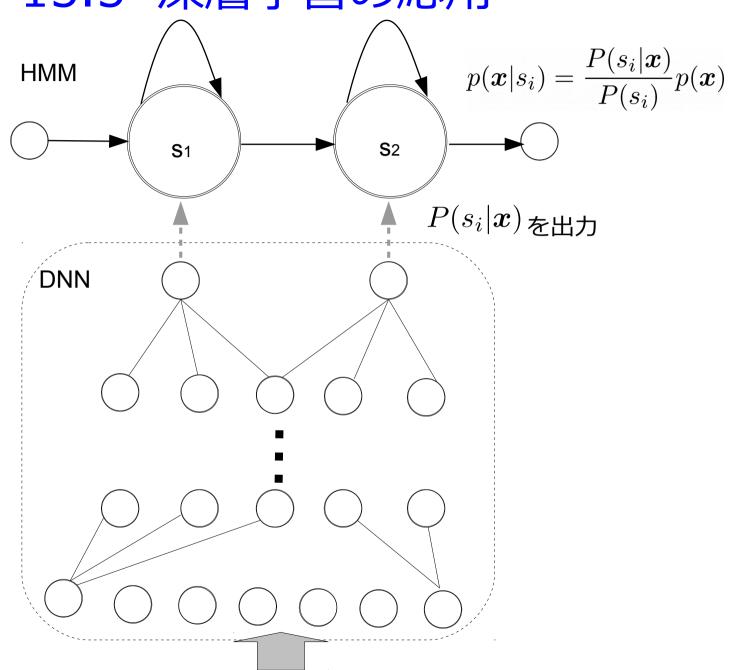
#### 15.4 RBM

- RBM(Restricted Boltzmann Machine)
  - 生起確率の高い入力 x に対して、エネルギーが高くなるように重み w と閾値 θ を学習

$$\Phi(\boldsymbol{x}|\boldsymbol{\theta},\boldsymbol{w}) = -\sum_{i \in \Omega} \theta_i x_i - \sum_{(i,j) \in E} w_{ij} x_i x_j$$

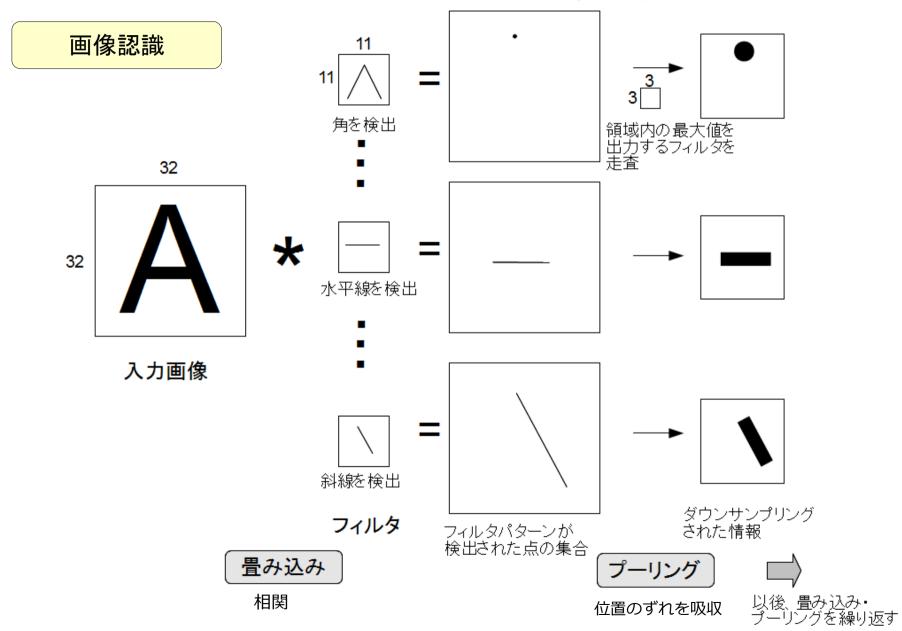


音声認識



低レベルまたは拡張された音声特徴  $oldsymbol{x}$ 

#### 畳み込みニューラルネット



自然言語処理

再帰型ニューラルネット

